

## ぽえ犬通信

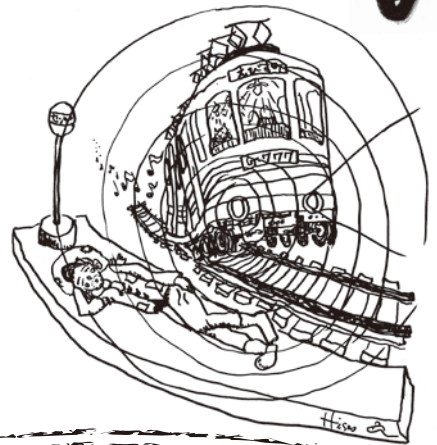
## ぷらっとホーム 野宿する人に会う

僕は家でこれを書いている。でもそのひとは家はない。  
 神田明さん、六十四歳。みんなからおっさんと呼ばれるそのひとは、六歳の時ある男にさらわれ、二十数年間その男とともに安立町にある家で暮らした。暮らしたといっても二十歳を過ぎると家にはたまたま帰るくらいで、四十歳のころ体を壊し、生活保護を受けて借りた沢之町の家で静養に入るまでは、仕事仲間と路上で暮らした。「いやほんまひどい胃潰瘍でしてね、出血多量で意識不明になりましたな、夢の中で子供に帰って、みんなで「あのこがほしい」をして笑ってましたわ。光がきらきらほんまきれいで、あのまま誰かにもらわれていたら死んでたんとかやいますか」と、ついさっき夢から覚めたかのように話す神田さんはその後元気を取り戻し、再び釜ヶ崎で路上の暮らしをはじめた。寝床は電気街のシャッター前、大黒町の大野旅館前、島之内のプール前などを転々とし、いまは西成労働センターの二階に落ち着いているという。昼の二時頃から夜通しアルミ缶を集め、朝の五時に業者に売ってからセンターの二階に行き眠る。「いまのこの暮らし、ひとと比べてしまうとコンプレックスも感じますわ。特別清掃のあと久しぶりにドヤに泊まって洗濯とかしていると、やっぱり家に住みたいと思いますわ」と話す神田さんを見てると、夜は屋根の下のベッドで眠る僕にも、闇夜の深さ、センターの床の硬さを感じずにはいられなくなる。いま神田さんを支えているものはなんですかと聞くと、「嫁さんのとこに帰ることやな」と、照れながらも答えてくれた。そんな神田さんも来年一月で満六十五歳を迎え、生活保護にあがるのをきっかけにそのささやかな望みを叶える。

ふと携帯電話にセンターの二階で撮った写真があることを思い出して見みる。西陽の差し込む天井の高いだっ広い空間に、ぽつりひとりのおじさんが眠っている。僕には、なんだかそこがプラットホームのように思えて、夢でもいいから、おじさんを家まで乗せて帰る電車が来てくれないかなあ、と思った。(安藤久雄)

人はひとりでは生きられない。  
 人と関わって生きる。  
 その舞台となる「まち」。  
 ここ釜ヶ崎には、おいがあつて、いろんな人がやつてくる。  
 いろんなことが起こる。  
 このごろ、どこも似ているような日本のまちだけれど、そこに、あなたが生きています。

ぽえ犬通信



## 釜ヶ崎 (あいりん) データ

釜ヶ崎(あいりん地区)は、かつて大阪市西成区にある日本最大の日雇い労働者の街であった。現在では、日雇い労働者の高齢化がすすみ、生活保護受給者数も増加している。

面積 面積 0.62 km<sup>2</sup>  
 人口 29,124人 (男性 24,099人、女性 5,025人)  
 世帯数 25,074世帯  
 人口にしろる男性の割合 82.7% (大阪府は 48.7%)  
 人口密度 46,974人/km<sup>2</sup> (大阪府は 11,910人/km<sup>2</sup>)  
 高齢化率 29.9% (全国平均は 20.1%)  
 平均寿命 (男性) 西成区 73.1歳 (全国市区町村最下位)  
 簡易宿所の数 76軒 (2000年頃は約 200軒)  
 日払いアパートの数 24軒

簡易宿所転用型福祉マンションの数 97軒  
 シェルター利用者 444人 (1日あたり、定員 1,040人)  
 野宿者 600人 (1日あたり、推定)  
 飯場滞在労働者数 約 2,300人  
 地域労働者数 (推定) 9,000~10,000人  
 現金求人数 (2009年9月、1日あたり、平日晴天) 1,327人  
 白手帳 (日雇雇用保健手帳) 所持者 2,025人  
 高齢者特別清掃事業登録者 2,236人  
 生活保護受給者 (2010年7月) 9,455人  
 炊き出し 四角公園 (毎日) 1日平均 339食 (昼夕計)、  
 三角公園 (火・土) 1日平均約 800食 (昼)

# 共生システムとしての城崎温泉—釜ヶ崎の街づくりを構想するためのひとつの視点

いまから 10 年余り前のことである。アフリカでの滞在を終えて帰国し、新聞を読んでいたら、阪神淡路大地震のあとにできたある宿屋についての記事を目にした。それは 10 人ほどしか宿泊できない小さな宿なのであるが、食事も用意しなければ、風呂もないという。そのかわりに宿泊客には、よい食堂を紹介するし、また近所の銭湯を利用してもらうというのだ。このようにして、震災で打撃を受けた街全体の活性化をはかることがねらいとある。この記事を読み、日本でもアフリカ的な共生システムが評価されるような素地があるのだと感心した。アフリカ的な共生システムというのは、あるものを複数のものでシェアするというのである。この場合でいうと、ひとりの客を一軒の宿屋だけで独占するのではなく、地域社会全体で共有しようということになる。これと似たようなことを、かつて訪ねた城崎温泉でも経験したので紹介したい。

城崎の温泉には「内湯」と「外湯」の 2 種類がある。内湯とは旅館内に設けられた温泉であり、外湯とは旅館の外にある公共の温泉である。客は宿泊した旅館の内湯を利用するのではなく、外湯を利用するよう奨励されている。宿泊客には、「外湯めぐり入浴券」なるものが配布され、通常は一回につき数百円支払って外湯を利用するところ、宿泊客は無料で何回でも外湯を楽しむことができるようになっていて、無料であるため、客は一度だけではなく何度も入浴を楽しむことになる。このように宿泊客をひとつの宿のなかに押し込めておくのではなく、外に排出することによって、結果的に街全体が活気を帯びてくることになる。

宿泊客には、手拭いの他、浴衣や上着、下駄、小物袋や手提げ籠といった湯めぐりに必要なアイテムが各旅館から貸与される。普段着すなわち日常着から浴衣という非日常着に着替えることによって、客は晴れやかな気分で温泉街を歩くことができるとともに、街全体には浴衣姿の温泉客があらこちらで見受けられるといった風情ある景観をつくりあげることにもつながっている。浴衣や上着のデザインは宿ごとに趣向をこらされており、見ているだけで楽しい。また下駄には宿名が表記されているため、外湯の下足番は下駄を確認することにより、非宿泊客による無料入浴券の不正使用を防ぐことにも役立っている。

ところで他の温泉街と同じように、城崎にも遊戯場がみられる。驚いたのが、スマートボールや射的といった昔ながらの遊技場がけっこう繁盛していることである。他の温泉街では閑古鳥が鳴いているような素朴な遊技場にも客が足を運ぶため、街全体の活性化につながるわけであるが、このことを支えているのが、宿に客を囲わないでできるだけ宿の外に出てもらおうという外湯奨励の制度であるといってよい。また城崎では、多くの旅館には土産屋もおかれていない。土産を買いたい客は、街の土産物専門店で買ってくださいという考えからである。

さて肝心の外湯は、温泉街に 6 カ所存在する。一番遠い湯でも 10 分ほど歩いて行ける距離にあるから、気楽に湯めぐりすることができる。ここで面白いと思ったことは、それぞれの外湯には伝説あるいは縁起ともいえるような由来譚が伝えられていることだ。たとえば、もっとも古い歴史をもつとされている「鶴の湯」はコウノトリがその湯で傷を癒したことからその名が付けられており、しあわせを招く湯として説明されている。「地藏湯」には湯元から地藏

尊が発見されたからという由来があり、衆生救いの湯とうたわれている。その他紹介すると、「まんだら湯」が一生一願の湯、「御所湯」が美人の湯、「柳湯」が子授けの湯、「一の湯」が開運招福の湯といった具合である。どの湯も泉質は同じであるのに、各湯に由来譚に基づくもうひとつの機能を付加することにより、客がより多くの湯をめぐってみたいと思うようになることはきわめて自然なことである。

日本各地の従来の温泉地の多くが衰退しているなかで、上述のように複数の要素が絡みあって、城崎の温泉街づくりは成功しているようにみえた。城崎温泉は大正期の震災で崩壊し、そこから立ちあがったという歴史がある。また湯量が減ってしまったとき内湯を制限するなどして、温泉という共有資源をみずから手でコントロールしたことや、のちに温泉街が栄えた時期にはびこった暴力団などの追放に成功したという経緯も忘れてはならない。と同時に、温泉街における旅館、外湯、遊戯場、土産屋その他を巻き込んだ共生システムが、街の活性化に果たしている役割はきわめて大きいといえる。それはすべての機能をひとつに兼ね備えた巨大リゾートホテルの発想とは根本的に異なるものである。

こうした城崎温泉にみられる特徴は、私がいま暮らす西成・釜ヶ崎の街にも通ずるものがあるといえそうだ。釜ヶ崎では近年、福祉マンションが増えたとはいえ、一泊 1000 円代で宿泊できるドヤと呼ばれる簡易宿所で寝泊まりしている者も多い。私も数ヶ月間、ドヤに滞在したことがあるが、三畳一間にあるものはテレビ、小型冷蔵庫、ちゃぶ台程度であり、毎日を過ごすにはあまりに狭く退屈な環境であった。幸いなことに釜ヶ崎には数多くの喫茶店がある。私は喫茶店でコーヒーを飲みながら新聞を読むことを日課としていたが、そのような流れでコクルームにも通うようになった。

コクルームには新聞は置かれていないが、モーニングを手伝っているスタッフやたまたま隣りあわせたお客と自由に会話できる雰囲気がある。そんな些細なことが、殺風景な毎日にアクセントを与えてくれた。そして、こうした時間が自分の「人間性」を維持するうえで大事であったと思う。釜ヶ崎のドヤがすべて巨大リゾートホテルのようであつたら、このような機会は半減してしまうに違いない。この街には飲食店の他にも銭湯、理髪店、商店、教会や支援団体の施設、公園など、人びとが立ち寄ることができる小さな拠点がいっぱいある。それらを巻き込んだ共生システムのなかに地域社会の活性化、あるいは暮らしやすい街づくりを構想するうえでの重要なヒントがあると思う。(岡本マサヒロ)

## 🐾 遠い南の世界から

先日、東京にある明治学院大学の平和研究所というところで研究会があり不肖ながら参加しました。

テーマは「資源と暴力」。今もむかしも、さまざまな資源の搾取が経済的にちからのつよい者から弱い者へ、暴力的におこなわれている事実。他人事ではない。釜ヶ崎のまちも同様に人的な資源の搾取の対象とされつづけ、世界的な経済発展のなかでいびつなかたちにつくりかえられてきた。だから、そこでされたおはなしは、どれもがわたしたちの根っこにつながる大切なもので、その中からひとつ。南米ボリビアなどにくらす、先住民族アイマラ族のおはなし。アイマラ族の人がみんなとともに生きるために考えた決まりや価値観に「Buen Vivir (善き生き方)」というものがあるそう。

「善く生きること」は、他の誰かの犠牲で、「よりよく生きる」ことではない

「善く生きること」は、「よりよい生活」、他の誰かより「よりよく生きること」ではない

「善く生きること」は競争しあうのではなく、お互いに補完しあうことを意味し、また隣人から利益を得るのではなく、分かち合うことを意味している

それは人と人との調和、自然との調和を意味している

そしてこれにもとづいて、多数決ではない、合意による意思決定がめざされるという。時間をかけて合意を形成していく。このことについて発表された方は、これは、グローバル化の中で引き起こされる暴力を抑制する力を持つのではないかとおはなしされていた。時間をかけてはなしをする。互いに耳をかたむけあう時間をもつということは、つよいものが要求するペースからはずれていく。それを選ぶことは、さまざまな人を置き去りにしてハイペースでまわる社会から降りることにはほかならないと思う。

カマメに立てかけられた看板。そこには、みんながはなし合って決めた約束がかかっている。そのひとつ、「一方的にしゃべらず、お互いのはなしを聞く耳を持ちましょう」を思い出す。

そして会では、めんどろな対話を繰り返すこと、それでしか暴力的な搾取に対抗できないのではないかと、いうとてもシンプルなのはなしに至る。人は大地に生き、社会に生き、まちに生き、他者と生きていて、ままたまらないけれど、なんとか生きるために対話する。自分以外のものを感じようとする。人も自然も動物も感じようとする。そんな大事なことを、搾取や排除をずっとずっと経験してきた、遠い南の世界の人からおしえられた貴重な時間。すこしづつ降りていきたいな。(はらだまい)

## 🐾 別府と釜ヶ崎

おばあちゃんになったら、別府に住みたい。昨年コルームのみんなで別府の「混浴温泉」に出かけ、アート作品をみて、まちを歩き、いくつかの温泉に入った。温泉の二階は公民館になっていて、温泉が地域の大切な寄り合いの場なんだとおもう。温泉は地域住民によって管理運営なされている。たとえば効能の高い湯質を保持するため、その温泉には蛇口はひとつしかなく、水で薄めることをなるべく避け、石鹸・シャンプー禁止となっている。入湯料は100円程度で、誰もが入りやすい。これは地域の人たちが決めたことだそう。日常的に温泉をつかう住人こそ、頭を洗い石鹸でからだを洗いたいと思うのだが、自分たちの温泉のために、自分たちで約束をつくり、それを守る。そして、温泉は自分の家のつづきのようなものだそうで、くつろぎの格好で温泉に出かけたりする。温泉は家と外のあいだにあるもの一渡り廊下、えんがわのようなものらしい。そこで出会う他人は袖すりあう人としてことばがかわされる。それは、簡単にことばにするのは気がひけるが、公共圏のありようを思い起こさせる。

さて、釜ヶ崎である。温泉があるといいのにな、と思う。露天風呂がいいな。足湯もあるといい。ひと風呂あびて、ひととき。ひとりで暮らす人たちの多いまちだから、あったまって、あったかい気持ちで人とつながれる場があるといいな。釜ヶ崎温泉。お湯が湧きてたらいいのにな。(上田假奈代)



## coco-morning ☕

皆さん、いつもココモーニングを食べに来てくださってどうもありがとうございます。私たちのような大学生で営むココモーニングに、いつもお客さんが来てくださるのが不思議ですが、毎朝、皆さんと楽しくおしゃべりできるのが本当にうれしいです。

ココモーニングでは、全品300円のA~Cセットがあり、だいたい08:00~10:00。現在、5人で運営しています。メンバーの都合でお休みになることがあります。

ココモーニングをはじめたきっかけは、釜ヶ崎のおっちゃん達とともにお仕事創りをしたいと思い、コルームで打ち合わせをしたことから始まりです。現在、釜のまちを勉強です。朝、皆さんから釜の話聞くのが楽しみであり、刺激となっています。

冬になって寒くなり、早起きは大変だけど、笑顔で「おはようございます！」を届けます。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

### ココモーニング

だいたい08:00~10:00 不定休

# この冬、ふたつのシンポジウムをおこないます！

ココルームとカマン！メディアセンターでは、日々さまざまなゆるやかなイベントがおこなわれています。お気軽にご参加ください。くわしくは、サイト <http://www.cocoroom.org> をご覧ください。

OCA! シンポジウム  
2011年1月19日(土)会場：西成プラザ

特に、アーティストに期待しているのではなく、あなた、なのだ。このまちで生きる。そのとき、大事なものは時間と関係性と。アートはそれらを持ちうる。地域でアートのことはだけにならないために。風の人、地の人。地域とアートのすてきな関係のために。まだ登っている。まだ問いつつ。

現代芸術創造支援事業 \*OCA! 大阪コミュニティアート  
OCA! シンポジウム  
2011年1月29日(土)  
会場：西成プラザ(地下鉄御堂筋線・堺筋線 動物園前駅7番出口すぐ、JR環状線 新今宮駅東出口すぐ 100円ショップ FLETSの店内から3Fへ)  
●イントロダクション 11:30 参加費：500円 要予約  
11:30 釜ヶ崎まちあるぎとお昼ご飯 ココルーム集合  
●シンポジウム 13:15 開場・受付 18:45 終了予定  
@西成プラザ 申し込み不要 当日先着 70名  
参加費：1000円(経済的にしんどい方は無料でけっこうです)  
出演：若橋由莉(表現教育)、北村成美(ダンサー)、加藤種男(アサヒビール芸術文化財団事務局長)、藤浩志(美術家)、樋口貞幸(フリーランス・芸術周辺労働者)

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業  
えんがわ日和のえんがわフォーラム  
日時：2011年2月26日(土) 13:00～17:00 (開場 12:30)  
参加費：無料 13:00～19:00 終了予定  
会場：西成プラザ  
出演：原口剛(地理学者)、尾久土正己(天文学者)、高見一夫(株式会社ワーク21 企画代表取締役、A'ワーク創造館館長)、倉田めば(ダルク大阪センター長)、山下裕子(子ども情報センタースタッフ)、木原万樹子木原法律相談事務所 弁護士)、椎名保友(パーティパーティ職員)、伊田広行(ユニオンぼちぼち副委員長)

2011年2月26日(土) 13:00-17:00 開場 12:30  
会場 西成プラザ  
参加費 無料  
申し込み不要 先着のみ  
主催 大阪府立大学新成校プラザ 企画アライ  
<http://www.univ-staff.or.jp/~ocg/>  
http://www.cocoroom.org  
http://www.kama-media.org  
●事前登録必須(参加費) 参加費500円  
●JR 新今宮駅 東出口から徒歩1分  
●JR 環状線 新今宮駅 東出口から徒歩1分  
●会場は100円ショップFLETSの店内から3Fへ  
●参加費が無料のため、先着です。  
お問い合わせ 特定非営利活動法人 こえとことばとこころの部屋(ココルーム)  
TEL:06-6636-1612 MAIL: info@cocoroom.org

**MAP**

ココルームは参加型カフェとなっています。営業時間はおよそ08:00～19:00 ころ。カマン! は昼から19:00 ころです。

- JR 新今宮駅東口から歩いて7分。
- 地下鉄・動物園前駅2番出口から、動物園前商店街を南に歩いて3分。商店街に面しています。

■ココルームでは、活動のための寄付をつっています。

三井住友銀行 天王寺駅前支店 普通1585265  
トクティエイリカツドウホウジコエトコノトココロノハヤ

郵便振替 記号01090-5-48059  
ココルーム

特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)  
Non-profit organization The Room for Full of Voice, Words, and Hearts (Cocoroom)

インフォショップ・カフェ ココルーム  
557-0001 大阪市西成区山王 1-15-11 tel&fax.06-6636-1612(+81)  
info@cocoroom.org  
<http://www.cocoroom.org>  
The Information Shop & Cafe COCOROOM  
1-15-11 Sannoh, Nishinari-ku, Osaka, JAPAN 557-0001



カマン!メディアセンター  
557-0002 大阪市西成区太子 1-11-6  
info@kama-media.org  
<http://www.kama-media.org>  
KAMAN! Media Center  
1-11-6 Taishi, Nishinari-ku, Osaka, JAPAN 557-0002